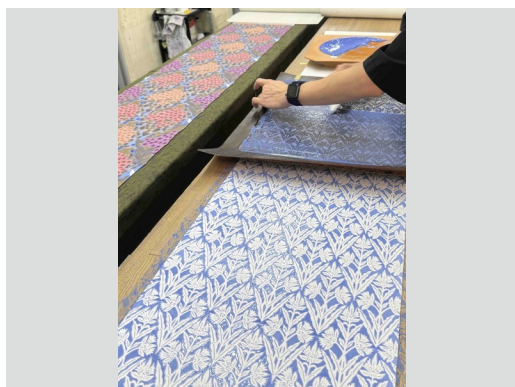
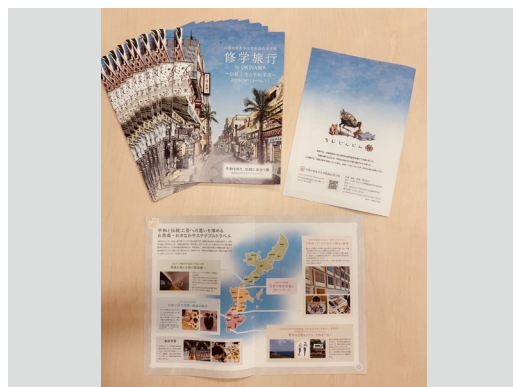


2025年度 研究成果報告書

所属機関名	お茶の水女子大学
申請者氏名	葦内 ありさ
分担者氏名	山下綾香、嶺井美樹
研究課題名	沖縄の伝統工芸で育む文化継承と平和への眼差し―高校家庭科の学習デザイン



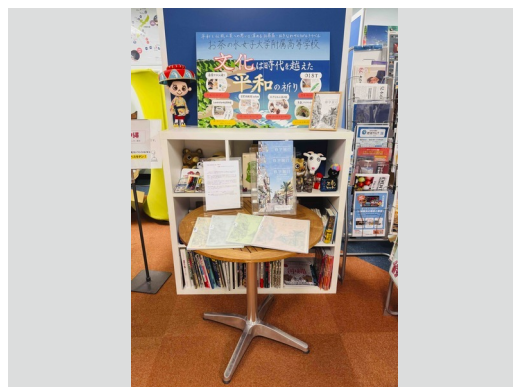
沖縄伝統工芸現地調査



作成したリーフレット



高校生による中学生への訪問授業



沖縄観光コンベンションビューロー東京事務所にて展示会

【研究の概要】

【目的】沖縄は、琉球王朝下で育まれた染織を中心に高度な伝統工芸を有する一方、王朝滅亡や戦争による消滅の危機を乗り越えて、伝統を受け継いできた歴史を持つ。本研究は、家庭科において沖縄の伝統工芸品の美を生活文化として体感し、伝統文化継承と平和への眼差しを育む授業開発を目的とする。

【方法】2025年11月に研究メンバーで沖縄現地調査を行い、久米島や沖縄本島の伝統工芸工房や関係者へのインタビューを実施し、教材となる工芸品を購入した。これをもとに授業を開発し、2026年2月より本校高校1～3年生を対象に、実物を活用した授業や地域の振興につながるサステナブルツーリズムを考える探究的授業を、修学旅行の事前・事後学習と関連させながら実施した。その成果を2026年7月に沖縄観光情報の拠点である沖縄観光コンベンションビューローにて展示し、開発したリーフレットを訪問者や関係省庁、全国の国立附属高校等へ配布した。

【結果】高校生の成果物からは、平和と伝統工芸への視点が育まれたことが窺えた。今後は、開発したリーフレットを本学の情報データベースで公開するとともに、意識調査を分析し、更なる学会発表や論文文化等普及を図りたい。

【研究の内容及び成果の詳細】

1. 研究内容及び成果（本研究によって得られた新知見、成果等）

(1) 沖縄現地調査・教材収集(2025年11月)

研究メンバー3名で、11月24日～27日に沖縄で調査を実施した。沖縄の工芸産業振興施設「おきなわ工芸の杜」（「戦後80周年沖縄工芸企画」展含む）、首里織・久米島紬・紅型の各組合・工房、八重山ミンサー織店舗、琉球漆器店・工房、那覇壺屋陶器街等を視察した。おきなわ工芸の杜では、共同研究者で主任コーディネーターの嶺井氏より専門的助言を得た。染織品・沖縄伝統工芸陶器（やちむん）・琉球漆器等を教材として購入し、久米島紬組合関係者、琉球王家ゆかりの紅型を継承する職人当主、代々続く琉球漆器店当主へのインタビュー計3件を実施、工房の様子を撮影して教材化した。

(2) 教材・授業開発(2025年12月～2026年1月)

購入した工芸品と現地調査の知見を整理し、お茶の水女子大学附属高等学校1・2年生への事前意識調査を経て、実物に触れる体験を核とする授業を設計した。

(3) 修学旅行と連携した学習デザイン(2026年2月～6月)

2月中旬より高校にて実践を開始した。1年生113名(必修「家庭総合」)は、事前意識調査、工房映像等を用いた授業、やちむん・琉球漆器を用いたサステナブルツーリズムに関する探究的調理実習、事後意識調査を実施した。2年生120名は、事前意識調査と修学旅行事前学習として伝統工芸実物を用いた学習デザインを行い、授業を実施した。2025年度3年生希望者は、3月にミニワークショップを行った。

2026年度3年生は、4月に沖縄にて修学旅行を実施した。研究代表者が旅行担当として本助成研究と連携したプログラムを開発した。平和学習・伝統工芸体験(伝統工芸振興施設・組合との連携、三線演奏会、紅型組合理事長講演)に加え、やんばる地区2ヶ所でのヤンバルクイナ等の環境学習、OIST（沖縄科学技術大学院大学）での科学技術と伝統工芸継承についての英語講義、大学生・現地の方々との交流を行った。旅行後、全120名がサステナブルツーリズムプランを検討し、修学旅行冊子として7月に発行した。6月には、やちむんを用いた調理実習も実施した。

(4) 成果の公表・発信活動(2026年5月～7月)

日本家政学会第78回大会(5/23、京都女子大学)にて、やちむん、琉球漆器を用いた探究的実習に関する発表を行った。6～7月には、附属中学2年生の調理実習に高校のやちむんを貸し出し、中学の民藝運動学習と合わせて普及活動を行った。

7月には、生徒のサステナブルツーリズムプランをもとに、研究代表者が監修・編集・執筆した配布用リーフレット「平和を祈り、伝統に出会う旅 おきなわサステナブルトラベル」200部を開発し、文部科学省・観光庁・文化庁・全国の国立大学附属高校・沖縄の伝統工芸関係者・OISTに送付した。

7/16～23には、沖縄観光コンベンションビューロー東京事務所(有楽町駅前・東京交通会館)にて展示会「平和と伝統工芸への思いを深めるーお茶高・おきなわサステナブルトラベル」を開催(同施設で高校の学習成果展示は初の試み)、高校生のメッセージパネルとサステナブルツーリズムプラン、調理実習等の成果を展示しリーフレットを配布した。

7/16には、3年生2クラスが関係省庁への「平和と伝統工芸を未来につなげる提言」を考えるワークショップを行い、3年生1クラスは附属中学校を訪問し、修学旅行冊子とリーフレットを用いて学びを共有する異校種連携授業を行った。同日、3年生120名を対象に事後意識調査を実施した。

高校生の成果物や意識調査からは、一連の学習デザインにより平和と伝統工芸への視点が育まれたことが明らかとなった。

2. 今後の研究の見通し

(1) 意識調査分析と学会等における発信

今後は、高校1年生・3年生対象の意識調査（事前・事後）のより詳細な分析を進める。分析結果を学会発表等での公表を目指す。教員研修や申請者が担当する大学の家庭科教育法の授業でも資料を提供し、教育現場での実践的な活用につなげたい。

(2) 本学 データベースにおける公開、他地域の伝統工芸振興の授業デザインへの支援

本研究は沖縄の伝統工芸を題材としたものであるが、他の教育者が各地や海外の伝統工芸をテーマとした授業を展開できるように、開発した教材・学習デザインを共有し支援を行う。開発したリーフレットはデジタル化して「お茶の水女子大学附校教材・論文データベース」に公開し、Web上で広く閲覧可能とする予定であり、成果を広く発信することにより、多様な伝統文化の理解や継承を後押ししたい。2026年8月には申請者が講師を務める徳島県の家庭科教員向け研修会でも、伝統工芸を教材とした事例を扱う予定である。

(3) サステナブルツーリズムプログラムとしての提案

本研究は修学旅行と関連させた授業デザインである。授業で考察した平和学習と伝統工芸を取り入れた旅行プランを、他の教育機関や教員のみならず、公的な沖縄観光の発信基地である沖縄観光コンベンションビューローを通じて旅行会社にも提案し、サステナブルツーリズムとしての伝統工芸振興を促進したい。7月の展示会はその第一歩であり、今後も継続的な発信の場を模索する。

(4) 異校種連携による体系的な学びの推進

申請者は附属幼小中高大が連携してエシカル・サステナブルな学びを推進するお茶の水女子大学研究機関「エシカル・ラーニングラボ」を運営しており、これまでも高校生が小中学生に対してエシカル消費に関する訪問授業を行うなど異校種連携を実践してきた。今回、伝統工芸品の貸し出しや、7月に3年生が附属中学校を訪問し、中学2年生へ沖縄の伝統工芸と平和学習について共有する授業を行ったのは、その取り組みの一環である。本研究で開発した教材を活用しながら、低年齢から伝統工芸の美に触れる機会を今後も継続的に提供し、その効果を検証し、報告会等で成果を共有することで意義を広めていきたい。

(5) 政策・行政への発信

7月のワークショップで生徒がまとめた文化庁・観光庁・文部科学省等への提言内容や、リーフレット送付先からの反

応を踏まえ、高校生の学びを政策的な議論や地域の文化振興施策につなげる可能性を探り、生徒が当事者として社会に提言する経験を、今後の探究的な学習のモデルとしても発展させていきたい。また、共同研究者の所属機関（おきなわ工芸の杜、ハーバード大大学院）との今後の連携も検討していく。

3. 本年度の学会発表・論文、刊行物・著書名等（今後、発表等を予定しているものも含む。）

（1）学会発表

前川 財団助成によるやちむん、琉球漆器を用いた探究的な調理実習に関する発表

発表者：葭内ありさ 日本家政学会第78回大会, 京都女子大学, 2026年5月23日（土）

（2）刊行物

葭内ありさ監修・編集・執筆『平和を祈り、伝統に出会う旅 おきなわサステナブルトラベル』リーフレット 2026年7月

（3）展示会開催

展示会名：「平和と伝統工芸への思いを深めるーお茶高・おきなわサステナブルトラベル」

会期：2026年7月16日(木) ～23日(木) 会場：沖縄観光コンベンションビューロー東京事務所